

文 化 服 装 学 院
平成 26 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

平成 27 年 7 月 27 日

1 教育理念、人材育成像

● 1-1 学校の教育理念

- 多くの卒業生をアパレル業界に排出していることを活かし、業界との結びつきも学院の強みとして盛り込んだ方がよい。
- 世界から目標とされるトップレベルのカリキュラム、スキルをピンポイントで強調して良いのではないかな。
- 世界レベルの専門教育と人間教育に力を入れていくには語学力に対する対応も具体的に表現する必要がある。

● 1-2 課程及び関連科目の教育理念、人材育成像

1-2-1 服飾専門課程の教育理念、人材育成像

- 各科の人材育成像が明確に示されている。
- 修業年数を考慮した、科の設定と専門性を高めることが可能な進級システムは、入学希望者の事情に合わせることができ、ファッション工科専門課程との違いが明確に出ている。
- 基礎から応用まで総合的に服づくりを学修し、多方面で就職ができるような人材育成像が感じられる。ファッションに関わる業種は、昔と比べ増えている。多方面で人材を輩出するとなると、総合的に学ぶことはよい。
- 専攻科では専門知識や技術を修得できることが評価できる。
- 企業で求められる人材を考えると、ファッション工科専門課程の内容が重なってくることは致し方ないため、10 年委員会などで科の編成の検討が必要。

1-2-2 ファッション工科専門課程の教育理念、人材育成像

- 検証を行うことで、各科の人材育成像が明確に示された。
- 産業の流れと科の存在が合致し、明確になっている。
- 産学連携を積極的に取り組んでいることが良いと思われる。
- 服装科との差別化を意識した記載になっている。今後は両課程での調整が必要と考える。
- 職種に対応した人材育成像は分かりやすい。
- 今後、大学が打ち出す実習的なカリキュラムに対して、さらに専門学校としての特徴を明確に表現すべきである。

1-2-3 ファッション流通専門課程の教育理念、人材育成像

- 各科の人材育成像が明確に示されており、それぞれの専門が差別化され、分かりやすい。
- 1 年次は基礎、2 年次はそれぞれ職域にあったコース設定と専門能力の修得と段階的な人材育成に期待できる。
- 今後もアパレル業界の変化に対応し各コースの特色を明確にしていく必要がある。

- 流通業の中でどのように貢献する人材を育成するのか、もう少し掘り下げた記述だと分かりやすい。
- 長期的な展望で、教える内容と短期的なスパンで変化を必要とする内容の検証が必要である。
- 今後の取り組みとしてセールス・アドバイザー教育の強化をする。

1-2-4 ファッション工芸専門課程の教育理念、人材育成像

- 各科の専門性、人材育成像が明確である。

1-2-5 II 部服飾専門課程の教育理念、人材育成像

- 検証したことが述べられていないのではないかな。
- 学生個々の求めているものが I 部とは違うため、II 部としての人材育成像を明確にするのは難しい。
- 夜間という限られた時間の中で、I 部と同等のカリキュラムを学ぶことができることは大変貴重である。様々なニーズに対応していると言える。

1-2-6 関連科目の教育理念

- 各科目、明確に教育理念が明確に示されている。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 / 2-2 学校組織

- それぞれの部署、会議、委員会については滞りなく運営されている。
- 専門学校として業界に人材を輩出していくためには組織の人員に業界経験者や組織コンサルティングのできる人材が加わることが求められる。
- 事務組織は、組織図だけ掲載するのではなく、事務局、各部、各課単位で自己点検評価をすべきである。

● 2-3 教員の組織 / 2-4 職員の組織

- 課題には適宜対応していると思われる。
- 技術、知識の会得だけでなく、人格的な要素も含めて資質向上するためのメニューも必要と思われる。
- 教員の資質向上について、現在の産業界での手法や考え方等を取り入れた研修の実施を検討して欲しい。
- 現在、クラス数の減少で、副主任が主任(担任)に昇任するのに時間を有している。若い教員が近い将来主任になることを考え研究や研修に参加させたほうが良い。ある程度の年数で主任にさせても良いのではないかな。

- 経営を考えると、組織コンサルティングのできる人材が加わることが求められる。
- 事務職員が、教員に実施している新人研修や新主任研修にも参加させており、意識づけさせている。

3 教育活動

● 3-1 学校のカリキュラム編成方針

3-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成方針

- 企業との連携を積極的にとることが必要と思われる。
- 学院全体にかかわることで、継続的に点検を行うべき大きな課題が多数あると思われるので、次年度への課題の部分に継続的に検証すべき課題、その他を追加記入しても良いのではないか。
- 取り組みの結果と点検・評価の項目で、選択科目の全部の科共通が難しいと判断したとあるが、判断するのではなく、工夫して実現すべきである。
- 次年度への課題がまったくカリキュラムに触れていないような気がする。
- 労働契約法改正についてどう対応するかなどを課題設定しても良いのではないか。

● 3-2 課程のカリキュラム編成方針、授業研究

3-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 課題が明確で、取り組みが実行されていることがわかる。
- 今後はファッション工科専門課程との調整・違いの打ちだしが必要と考える。
- 学年ごとで終了ではなく、学年間の連携が必要と思われる。
- 学生の作品や就職、コンテストなどに結果が表れている。
- 各科の特徴が具体的に授業として展開されている。
- 「今年度の課題」と「取り組みの結果と点検・評価」が一部直接的につながりづらい箇所があったが、全体的には課程や科の授業に関しての取り組みが具体的に記載されていたため、理解を深めることができた。

3-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 今後は服飾専門課程との調整・違いの打ちだしが必要と考える。
- 各科で授業内容が細かく記載されている。
- 示された課題に対しての取り組みがなされている。
- 取り組み結果が具体的に記されており、そのことが次年度の明確な課題に繋がっている。
- 一部、具体的な表現にしたほうが読み手に伝わりやすいのではないか、と思われる箇所もあったが、全体的には課程や科の授業に関しての取り組みが丁寧に表されていた

ので理解を深めることができた。

3-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 各科にあわせたカリキュラム編成がなされている。
- 示された課題に対しての取り組みがなされている。
- 全体的に「取り組みの結果と点検・評価」が明白でわかりやすくまとめられていた。
- 即戦力となる人材育成をしていくために今後も企業や卒業生とのつながりを深め、時代の変化に対応していくことが明記されている。
- 専攻科と 2 年次のコースの細分化について、良い面もあるようだが、人数がクラス成立に達しないというリスクがあるように思える。
- 学生の希望に合わせる事は最重要とも言えるが、業界で働いて報酬を得る事の基本条件を教えることも大切である。
- ストアマネジメント専攻は、科の魅力を持ちながらも休止に至った原因を探る必要がある。

3-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 就業体験など、就職へ向けてのカリキュラム編成がなされている。
- バッグデザイン科は、ファッション工芸専門課程として各科の特徴が明確であり、企業との取り組みが盛んであることが評価できる。

3-2-5 II 部服装科のカリキュラム編成方針、授業研究

- 3 年次の選択科目はコマ数も多く、習熟度が高いため、内容に含めた方が良い。
- 取り組みの結果の記載内容が、今年度の課題と内容的には同じ文章が記載されている。取り組んだ内容が記されていない。
- 次年度引き続き取り組むべき課題の記載もれがある。
- 夜間という限られた時間の中で、一部と同等のカリキュラムを学ぶために工夫している取り組みについて記載してもよいと思われる。

● 3-3 教育・成績評価

- 学院としての成績評価の打ち出しが示されていない。評価の基準のようなものがない。
- 成績評価の表示は、教員の個々の希望より、教務委員会で検討し、学校として統一すべきである。
- 課題は示されているが、取り組みについて具体的な方策や期日を明記するとなお良い。
- 教務委員会で再検討課題として取り組んでほしい。
- 成績入力時に混乱がないように評価名簿を配布する前に誤りがないか点検をしてほしい。
- 今年度の課題として取り上げたインターンシップに関しての結果と今後の課題が明記されていない。
- 教務委員会と連携して、成績評価の検討に取り組むことが必要と思われる。

- 課題に対する取り組み結果と点検・評価の内容が乏しい。

● 3-4 キャリア教育

- 各科でとらえるのではなく、学校全体でいかにキャリア教育が行われ、反映されているのかがみえない。
- キャリア教育をどう捉えて、どう考えているのか？教員との連動性や、教員がいかに関わっているかが感じられない。
- キャリア教育は整っているが、学生の就職意識が低いので意識を上げる指導を取り入れたほうが良い。掲示物等で学生の意欲を促す。
- 重点項目でもあり、課題に対する取り組みは早期に行うことが望ましい。
- 1年限りの課程に関して取り組まれたことが次年度へ引きつがれていない。記載や引きつぎが必要である。
- キャリア授業は、専門の外部講師による授業が望ましい。

● 3-5 学外授業

3-5-1 学外実習の方針及びその状況

3-5-2 インターンシップの方針及びその状況

3-5-3 海外研修の方針及びその状況

3-5-4 コラボレーション

3-5-5 コンテスト活動

- 課題の多い活動もあるが、おおむね課題への取り組みはなされている。
- 学生への満足度アンケートなどを行う必要がある。
- インターンシップについて、平成 27 年度がスタートしているにも関わらず、課題に挙げたことが実行されていない。
- コラボレーション結果は様々だが、行った企業からのフィードバックは実社会でのビジネスの難しさを知る良い機会となることを明記する必要がある。
- コラボレーションは、年々増えてきているが、時期によっては実施が厳しい時もある。
- コンテスト活動について、昨今は他のファッション系専門学校がコンテストに力を入れていることが伺える反面、文化服装学院の入賞者が減少しているように思える。コンテスト結果だけがすべてではないが、分かりやすい学修成果として入学者の増加にも繋がるため、より力を入れるべきである。学生全員が応募するように取り組んでも良いのではないか。
- 海外研修の方針及びその状況について、学生ニーズの課題に対する、取り組みと結果の内容が乏しい。

● 3-6 学校行事

3-6-1 行事の状況

- サマーセミナーやファッションフェスティバルなど、具体的な行事を記載した方が次

年度の課題も見えてくるのではないかと。

- 各行事への改善活動の仕組みが出来ている点を評価する。
- 企業の現状や、各課程の特色を生かし参加できる行事を検討していく必要がある。
- 学校行事に関する意識調査を行うため、学生へアンケートをとるべきである。

4 学修成果

● 4-1 進路・就職状況

4-1-1 就職率・推移

4-1-2 資格取得率・推移・対策

- 全学での就職支援体制の仕組み作りがなされている。
- 資格の価値を付ける為の方策が必要ではないか。例えば難関にして、合格率を下げ、資格の存在を大きいものとして成長させるなど。このままでは、資格に価値は望めないように思える。
- 留学生の就職について表記しても良いのではないかと。
- 課題に挙げたことの結果が記されていないところがある。
- 企業、検定の運営団体などへの取り組み結果の内容がない。認定資格を評価するよう企業に要望を出すところがあるが、具体的にどのようなやり方でしているのか明記する。
- ファッション分野には国家資格がなく、資格を取得しても直接就職に結びつくことが少ないとはいえ、キャリア支援室において、資格取得を促していかなければならない。
- 資格は、学院で学んだ成果確認の作業である事をよく伝える。就職に役に立たない、金額に違いがないなどの損得を前面に出さない方がよい。

● 4-2 退学者への対策

- 退学者への対策はなされているが、学業を理由とした退学者の増加には、再度の取り組みが必要である。
- 転科をすれば退学者が減るというやり方で本当に良いのか省みる。意欲喪失、学業不振が理由で退学をする学生が増加しているため、限界があるように思う。
- 1年次の7月、9月、3月に退学者が多いことについて、対策を講じていくためにさらに検討が必要である。

● 4-3 卒業生の状況

4-3-1 卒業生の活躍の状況

- 学業成果の位置付けで、学院の学修成果がどのように卒業生につながっているのかを記載しても良い。
- 渋谷インキュベーションセンターなど、卒業生の支援なども記載しても良い。

- ・「すみれ会」についての内容が多い。すみれ会の項目もあるので内容の重複が気になった。
- ・デザイナーだけでなく、活躍している卒業生を、インターネット上で紹介、サポートすることが必要であり記されるべきと考える。
- ・卒業生の活躍状況を外部にもっと公表してもいい。文化服装学院の財産の一つである。
- ・すみれ会の会員について、入会者は卒業時に必ず「永久会員」制度にすることを検討する。

5 学生支援

● 5-1 キャリア支援

5-1-1 求人の開拓

5-1-2 ハローワーク等公的支援機関との連携

- ・「企業を開拓した教職員は責任を持って～」と記されているが、キャリア支援室のサポート体制があってしかるべきである。教員は教育に従事するため、そのことを考えた方策を願いたい。
- ・企業訪問は教職員協力し、行う必要がある。
- ・Uターン、Iターン希望の学生も増えてきているので、情報提供を求める必要がある。
- ・取り組みはなされているが、継続的な求人開拓の仕組みが必要である。
- ・記されている課題に関しての結果が明記されていないところがある。
- ・留学生支援を積極的にしているのは理解できた。しかし、留学生は増え続けるため、その対応が後手に回らないよう注意する必要もある。また、優秀な留学生は就職させられるようにしたい。
- ・就職展示会は良い取り組みである。企業にもっと周知し、さらに来校していただく。

● 5-2 学生相談体制

- ・今年度の課題と言うよりは、現状報告になっているのではないか。
- ・全学的な問題解決への仕組み作りが必要だと思われる。
- ・課題を提示し、それについての取り組みの結果と点検・評価を記入したほうがわかりやすい。
- ・障害者差別解消法の施行というものが、どのような内容なのか教職員に知らせる機会が必要。
- ・学生の認知度がいまひとつ低いように思える。より一層の周知活動が必要である。

● 5-3 経済支援・健康管理

5-3-1 奨学金

5-3-2 学生寮

5-3-3 健康診断

- 学生寮について、抽選に漏れた学生に対してより一層のフォローを求める。また、地方から来る学生の両親が一人暮らしを不安に思っているため、さらに充実する必要がある。
- 健康診断は、4月に実施したことで良い結果が生まれたようで、PDCAがうまく働いていると思われる。
- 奨学金：学校独自の奨学金を設定できる専門学校は多くはない。もっと学内外の認知度を上げた方がよいのではないか。
- 奨学金：奨学金の規模については、在校生数による学納金の額に対しては、小規模であると思える。
- もっと学生数にあった割合を検討すべきである。

● 5-4 課外活動

5-4-1 学友会（在校生の会）

- 具体的な課題の抽出と、その対応策の検討が必要である。
- 社会貢献をもっと具体的に表記しても良いのではないか。
- 『すみれ』は学生の満足だけでなく、外部の方も読む事を念頭に、広報活動の一環になるよう配慮する。

● 5-5 卒業生・社会人への支援対策

5-5-1 再教育・相談

5-5-2 すみれ会（卒業生の会）

- 学校とすみれ会の連携をより強化していくことが望ましい。
- eラーニング活用の課題があるが、結果が記されていない。至急取り組むべき内容と考える。
- 卒業生サポートの強化が在校生の目標や就職先の拡張にもなる。
- すみれ会は、メリットを具体的に表記し、卒業生との情報交換の場を増やす必要がある。
- 卒業生の功績が文化服装学院に大きく貢献しているが、学校側は卒業生に対して十分な対応をしているか。
- より卒業生とのコミュニケーションがとれる方法を考えていくべきである。
- 「卒業後5年目（3年目）コースのブラッシュアップ」等のプログラムを作り、学び直してもらう。

6 教育環境

● 6-1 施設・設備

6-1-1 教室・講義室・実習室の整備・使用状況

6-1-2 教職員の研究室・事務室の整備・使用状況

- 大学の小平校舎移転でスペースが少なくなっている。その中でどのように有効に使用していくかを考えなければならない。
- 平成 26 年度末に研究室などの移動が大幅に行われ、改善されている点もあるが、いまだ教員からの要望に対応できていない点が見受けられる。
- 教室増設は無理だとしても、もう少し考えられた教室配置、研究室配置に出来ないか。学生が減少しているにも関わらず、教室数が足りないなどの問題が出ているのは理解しかねる。
- 事務で利用する部屋や倉庫が B 館にあるが、出来るだけ別の校舎に移動し、B 館の教室は極力学生が利用出来るようにするべきではないか。
- クラス編成人数が多すぎるため、教室が非常に狭く感じられる。編成人数とクラスの使用状況を改める必要がある。

● 6-2 付属機関・施設

6-2-1 図書館

6-2-2 服飾博物館

6-2-3 ファッションリソースセンター

6-2-4 文化・服装形態機能研究所

6-2-5 国際ファッション産学推進機構

6-2-6 国際交流センター

6-2-7 I T 戦略室

6-2-8 健康管理センター医務室

6-2-9 文化事業局

6-2-10 学生食堂

6-2-11 文化北竜館・文化軽井沢山荘

- 学生食堂は、教職員、学生から、業者・味・接客・スペースなどに関する不満が出ていると思うが、全く言及されていない。メニュー以外に改善すべき点が多々あると思うが、課題の認識不足なのではないか。
- 図書館は、改善が多く見られ、PDCAサイクルがうまくいっているように思う。Web サイトがさらに使い易くなるとなお良い。
- リソースセンターは、卒業生や在校生の展示イベントは刺激になるだけでなく見せ方の学びにもつながっている。学生が製作した作品を販売する催し「スチューディオ・ウフ」など、新しいものを発信する姿勢が評価出来る。ただ、学生が利用している姿をあまり見かけないため、学生からの認知度をさらに上げるべき。また、ホームページをもう少し見やすくするという事も課題に設定して欲しい。
- 文化・服装形態機能研究所は、社会貢献としても、よりスムーズに行えるよう学校全体で検討していく必要がある。
- 国際交流センターは、教員のグローバル意識を高めるための具体的課題を明記し実行

していく必要がある。

- 文化事業局は、営業時間等、サービス部分に疑問がある。セールをするなど、工夫が欲しい。新しい販路の開拓などを考えても良い時期だと思われる。日本だけではなく、アジアのファッション系学校へ文化オリジナル商品を売り込むことは出来ないのか。

● 6-3 機材・備品の管理状況

- 予算の都合上、老朽化したものをすぐ買い替えることは無理だと分かるが、学生や教員の要望を取り入れながら、新しい備品を購入していくべきである。古すぎる備品は学生や、入学相談者の不満にもつながるのではないかな。

7 学生募集

● 7-1 学生募集広報

- 高校生だけでなく大学生、社会人向けにアプローチする方法も必要である。大卒者に向けた科があるにもかかわらず広報活動に関して何も明記されていないことに問題を感じる。Ⅱ部や文化ファッション大学院大学とあわせて広報先の検討が急務である。
- 2018 年問題の対策が必須である。入案作成(発行)年次にあわせ、対策を望む。そのためにも広報活動に工夫をして頂きたい。
- 休日の公開授業やファッションショーの一般公開などの結果を記入してほしい。
- 直接接触した人数が増加したにも関わらず、入学者数が減少した原因は、本学院の魅力を説明会でアピール出来ていないからではないか。他の専門学校は派手な学校説明会やイベントを行っているという聞く。リサーチした上でアプローチの仕方を変えた方がよい。
- AO入試を6月から行っている専門学校が多くある中で、秋からの入学試験しかないのでは遅いのではないかな。
- 外国語専門学校のイベント(土曜 KIDS 対象)とコラボするなど、学園内のコラボも考えてほしい。
- 学校説明会に来てでも Bun Cafe、食堂、購買など、施設の魅力を感じにくい。利用できるメリットを伝えてほしい。
- 資格試験合格者、コンテスト入賞者等を大々的に発表する。

8 財務

● 8-1 財務状況

- 消費税の値上げや光熱費の値上げ、物価上昇などが発生した時点でそれに準じた学納

金などの値上げが図られていなかったように思うが、正当な値上げとして捉えて良いと考える。そのような策がされず人件費削減が表面化することに違和感がある。

- 教育環境拡充のためにも、早期の財務体質の健全化が望まれる。
- 学院単体では、黒字収支となる。
- 歴史もあり、卒業生も多くいる。寄付金を集めるための方策を考えるべきである。
- 具体的な収支の均衡を保つためには、人件費削減が求められているが、組織の再編などで具体的な対策が必要だと思われる。

9 法令等の遵守

● 9-1 財務状況 / 9-2 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備 / 9-3 個人情報保護 / 9-4 ハラスメント対策

- 適切に運営されている。
- 個人情報について、管理体制は整っていると思うが、毎日のように個人情報漏洩のニュースが流れている中で、多数の個人情報を取り扱う本学院も改めて十分に注意しなければならない。文化服装学院の信用を失墜させる可能性があるほどの重要な項目だと認識し、個々人が注意していかなければならない。個人情報保護に関する研修などがあっても良いのではないか。
- ハラスメント対策は、いざという時にすぐ学生が相談できるよう、学生からの認知度を高めるため、入学時のオリエンテーションなどで周知した方が良いように思う。

10 社会貢献・地域貢献

● 10-1 社会貢献等の取り組み

10-1-1 活動への支援状況

10-1-2 公開講座・教育訓練等

- 「国リハコレクション」への協力・取り組みなど、もっと具体的に表記しても良いと思う。非常に大きな貢献である。
- 地域住民へ校内を案内する試みが良い。次年度以降も継続し、地域住民の方々と良好な関係を築き上げて行けるよう尽力して頂きたい。

11 国際交流

● 11-1 留学生の受け入れ

11-1-1 留学生の受け入れ状況

● 11-2 国際交流の状況

11-2-1 合作校の状況

11-2-2 提携校の状況

- 今後、留学生が増加するとしたら、専門の部署の設置を考えなければ、留学生増加は本質的に見込めない。
- 留学生増加は海外から評価されている結果であり、学院の取り組みの成果と言える。
- 各国に経済状況や発展状況により、留学生の偏りが出てくることは致し方ない。予測を立てて対応し、海外からの入学者を増やすことは学校経営として取り組むべき課題と考える。
- 学生の満足度を高めるのは当たり前である。留学生に日本の学校とはいかなるものかを理解させることも大切である。
- 日本語能力が未熟な留学生がドロップアウトしないためにも、語学の選択科目や補習のような授業で日本語を学べる時間があっても良いように思う。
- 留学生の増加を見込み、意識調査などを行い、各部署で恒常的な状態を維持するような努力をする。

12 平成 26 年度新設科

● 12-1 新設科の教育理念・人材育成像

12-1-1 ファッション流通専門課程グローバルビジネスデザイン科の教育理念、人材育成像

- 平成 26 年度より新設された科であるため、4 年後を目安に学内外からの情報を得て方向性を見直していく。同時に認知度を高める活動を検討する。
- 具体的な職種としての人材育成像があるとなお良い。
- ファッションビジネスの流通業の中でどのような人材として活躍していくのかが、さらに具体的にイメージできると良いのではないかと。
- メインであるインターンシップの決定があまりにも遅いのでは。特徴あるカリキュラムの構築をしっかりとしなければ、広報展開もままならない。他大学と競合するためにも、カリキュラムは重要である。

12-1-2 ファッション流通専門課程流通ビジネス科の教育理念、人材育成像

- 26 年度より新設された科であるため、卒業生や企業から情報を得て方向性を見直していく。同時に認知度を高める活動を検討する。
- 大学、短大卒業者をターゲットに 1 年間で学び就職に直結しているメリットを強調し、認知度を高めることを検討する。

12-1-3 II部ファッション流通専門課程ファッション流通科の教育理念、人材育成像

- 平成 26 年度より新設された科であるため、2 年後を目安に学内外からの情報を得て方向性を見直していく。
- 認知度を高める活動を検討し、学生を多く集めたい。

● 12-2 カリキュラム編成方針・授業研究

12-2-1 ファッション流通専門課程グローバルビジネスデザイン科のカリキュラム編成方針、授業研究

- 平成 26 年度より新設された科であるため、4 年後を目安に学内外からの情報を得て講師やカリキュラムの計画を時代に沿ったものに調整していく必要がある。
- 新設科のため、細かな授業の調整を継続して行い、内容をしっかり組み立て学生募集の際、アピールする必要がある。
- 表現が少し主観的なところがあるが、時代性を考えた教育理念と人材育成像であり、今後期待できる。
- 学院の強みを活用した流通課程の 4 年制とするために、さらに色々な側面から検証が必要である。

12-1-2 ファッション流通専門課程流通ビジネス科のカリキュラム編成方針、授業研究

- 平成 26 年度より新設された科であるため、卒業生や企業から情報を得て講師やカリキュラムの計画を時代に沿ったものに調整していく必要がある。
- 新設科のため、細かな授業の調整を継続して行う必要がある
- 1 年制のため、その年ごとの学生の気質や傾向も変わるので検証が難しい。
- 就職に直結していることを強調し、認知度をあげていくことが重要である。

12-1-3 II部ファッション流通専門課程ファッション流通科のカリキュラム編成方針、授業研究

- 26 年度より新設された科であるため、2 年後を目安に学内外からの情報を得て講師やカリキュラムの計画を時代に沿ったものに調整していく必要がある。
- 学生へ授業アンケートなどを行い、細かな授業の調整を継続して行う必要がある。

文化服装学院 平成 26 年度
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

自己点検・評価委員会 内部評価会議

開催概要

平成 27 年 7 月 8 日（水）14：00～15：30

文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

内部評価委員

小杉 早苗、辛島 敦子、野中 慶子、平野 栄子、宮原 勝一、酒井 英実
横倉 孝、須藤 久栄、石崎 克典

自己点検・評価委員

山田 とし子、渡井 邦重、山口 容子
尾花 京子、相澤 雅美、安島 直美
山本 貴代、太田 るみ子、小川 紘子
野原 美香、大工原 睦、伊藤 望
吉野 真文、宇都宮 愛

オブザーバー

村田 達也、小林 克也、池田 衛、井守 あさみ、浜田 法子、古澤 直子

以上